

JAPDT

特定非営利活動法人 日本ペットドッグトレーナーズ協会 (JAPDT)

ペットドッグパートナーズ試験

Basic 実技試験 飼い主用 試験項目



## ペットドッグパートナーズ試験 Basic 実技試験の目的

JAPDT では一般社会に受け入れてもらえる家庭犬の普及こそが犬との共生を促進するものと考え、「家庭犬のしつけ・トレーニングの基準」を定めるため、ペットドッグパートナーズ試験を実施することとなりました。

ペットドッグパートナーズ試験では、飼い主と犬がモラルやマナーを守り、必要な知識や技術を習得し、広く社会に受け入れてもらえるようになることを目的としています。実技試験では、Basic I・II、Advance I・II、Master クラスと細かく認定段階を設け、多くの飼い主の方が少しずつステップアップしながら実技スキルのレベルアップが出来るように設定しています。



### 1. 実技試験

#### 1) 受験資格／受験方法

JAPDT ペットドッグパートナーズ Basic ジャッジ資格を有するトレーナーが開催する、ペットドッグパートナーズ Basic 試験に下記項目を提出し申込みを行うことで受験が可能となります。詳細は各しつけ方教室へご相談ください。

- ① 狂犬病ワクチン接種済票、鑑札（畜犬登録番号）の提出。  
※アレルギーなどでワクチンを接種できない場合は、獣医師の猶予証明書を提出してください。
- ② 混合ワクチンの接種済票の提出（5種以上、3年以内）。  
※アレルギーなどでワクチンを接種できない場合は、獣医師の猶予証明書を提出してください。
- ③ 1年以内の健康診断表（獣医師より発行）の提出。

- ④ 実技試験を主催するトレーナー（しつけ方教室）へ、ペットドッグパートナーズ実技試験申込用紙の提出。
- ⑤ 実技試験料金の支払い。

※申し込み締切日までに各会場へ郵送、メール、FAXにて提出するようにお願いいたします。

試験申し込みに関する詳細（お車でのご来場・試験料金支払い等）は各会場によって異なる場合がございます。

詳細に関しては、各会場へ直接お問い合わせいただきますようお願いいたします。

## 2) 合否および認定までの流れ

JAPDT 認定 ペットドッグパートナーズ Basic I・II 実技試験では、1 1 項目の実技試験から構成されています。

すべての項目で合格基準を満たした場合のみ Basic I および Basic II それぞれの合格証が担当ジャッジより発行されます。

- ① 実技試験合否は各しつけ方教室の JAPDT Basic 認定ジャッジが判断します。

※Basic I・II の実技試験 1 1 項目すべてにおいて合格基準が必要です。

- ② 合格証に関しては、各しつけ方教室のジャッジが発行します。
- ③ Basic II の実技試験合格者は、Basic 認定の申請を JAPDT に行います。各しつけ方教室のジャッジに申請し、各しつけ方教室でまとめて JAPDT に申請をします。Advance 試験を受験するためには、Basic 認定証が必要となりますのでご注意ください。
- ④ JAPDT は認定証発行の申請を受けると、ジャッジの方へ認定料金の振込案内を送付いたします。
- ⑤ ジャッジが振込案内を受け取り、認定料金¥3,000（税別）×人数分のお支払いが確認されると JAPDT より認定証が発行され、ジャッジの方へまとめて郵送いたします。ジャッジの方より認定証をお受け取りください。

### 3) Basic I・II 実技試験 飼い主用 注意事項

各試験会場によって、来場方法など異なる場合がございます。詳細は各会場へ直接お問い合わせください。

#### ① 試験会場

- ・ 試験前、会場慣らしの時間（30分）を設定します。  
※会場に十分慣れさせておきましょう。その際には、不適切な排泄にご注意ください。犬の排泄は決められた場所で行います。
- ・ ジャッジの指示に従い、待機場所で待機してください。
- ・ 試験会場には、必ず所定の排泄場所が告知されます。その場所以外での排泄は認めていませんのでご注意ください。

#### ② 試験中の排泄

- ・ 受験者の犬が所定の場所以外で排泄してしまった場合は、その受験者の試験は即刻中止し失格とします。
- ・ 犬の排泄の試験項目は、試験中のみならず、試験会場に来てから退場するまでも審査の対象とします。
- ・ 審査中の排泄の申し出は許可しません。あらかじめ試験前に犬の様子を観察し、済ませておいてください。
- ・ 排泄物を処理するもの（トイレシート、うんち袋など）は受験者が持参したものを使用し、排泄物は受験者が持ち帰ります。

#### ③ 受験者の禁止事項

- ・ 試験中はトリーツの使用を禁止とします。ただし、トリーツポーチを腰に下げることができ、各試験項目の開始前、終了後にトリーツを与えることができます。各試験項目を実施している際にトリーツポーチに手を当てるなどの行為は禁止です。
- ・ 試験の際は、一般的な首輪（プレーンカラー）を使用します。チョークチェーン、スパイクチェーン、ハーフチョーク、引っ張り防止用ハーネス、プレミアカラー、ハーネス、ジェントルリーダーなどの使用は禁止です。
- ・ リードでのショックは禁止です。
- ・ 人及び他の犬、またその犬自身が怪我をしてしまうようなものの装着は禁止です。  
(鉾のついた首輪など)

#### ④ 受験者の失格

以下の行為をした受験者とその犬は、即刻試験を中止し失格とします。

- ・ 他の人や犬に対する咬みつき。
- ・ 不適切な排泄。
- ・ 不適切な吠え。

※試験中のみならず、試験会場に来てから退場するまで吠え止ませることができない状況が3回以上見られた場合。

ただし、避けられないアクシデントによる吠えは含めません。

※審査中の犬に影響が出てしまった場合、落ち着いてから試験を再開します。

- ・ ジャッジの指示に従わない場合。
- ・ その他、進行を妨げる行為をした場合。

#### ⑤ ジャッジの審査

- ・ 審査は客観的に公平な基準で行います。
- ・ 不合格項目があった場合、ジャッジがその不合格の理由を受験者に説明をし、そのまま試験を続けるか、中止にするかを受験者に確認します。
- ・ ただし、不合格項目が3つになった段階でジャッジの判断により、中止とすることができます。

#### 4) Basic I・II 実技試験 項目詳細

##### ①装着する

犬が首回りに何か装着されることを嫌がらないようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	首輪の装着に慣れているか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（A地点）で飼い主は犬と待機します。</p> <p>2. 飼い主はリードの持ち手の輪を左右どちらかの手首に通し両手を自由な状態にします。</p> <p>3. ジャッジが準備した首輪を飼い主に渡し、飼い主はジャッジの指示で犬に首輪を装着し、ジャッジの指示で首輪を外します。</p>	<p>1. 犬の姿勢は問いません。</p> <p>2. 姿勢を維持させるなどの指示の回数制限はありません。</p> <p>3. リードを踏むなどリードによる行動制限は不可とします。</p>	<p>首回りを触られることに慣らし、首輪を持つ、首輪の着脱に慣らす練習をします。</p>	<p>脱着の際、逃げ出す（リードが張る）、暴れる、威嚇、攻撃など見られなければ合格。</p> <p>首輪の着脱が1分以内にできれば合格。</p>
Ba II	エリザベスカラーの装着になれているか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（A地点）で飼い主は犬と待機します。</p> <p>2. 飼い主はリードの持ち手の輪を左右どちらかの手首に通し両手を自由な状態にします。</p> <p>3. ジャッジの指示で、飼い主が準備したエリザベスカラーを装着し、ジャッジの指示でエリザベスカラーを外します。</p>	<p>1. 犬の姿勢は問いません。</p> <p>2. 姿勢を維持させるなどの指示の回数制限はありません。</p> <p>3. リードを踏むなどリードによる行動制限は不可とします。</p> <p>4. エリザベスカラーの種類は問いません。 （個々の飼い主の実用性に合わせる）</p>	<p>エリザベスカラーの脱着に対して抵抗しないように慣らす練習をします。</p>	<p>脱着の際、逃げ出す（リードが張る）、暴れる、威嚇、攻撃など見られなければ合格。</p> <p>エリザベスカラーの着脱が5分以内にできれば合格。</p>

②体を触わる（飼い主や他の人）：健康管理、保定などの練習

病院での診察やお手入れの際に、誰にどこを触られても平気なようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	健康管理、保定などの際に必要な、顔や体を触られても静かにしていただけるか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（A地点）で飼い主は犬と待機します。</p> <p>2. 飼い主はリードの持ち手の輪をどちらかの手首に通し、両手を自由な状態にします。</p> <p>3. ジャッジの指示に従い、飼い主が ①耳 ②マズル ③目の周り ④首回り ⑤足先 ⑥尻尾 ⑦肛門周囲 ⑧お腹 をそれぞれ3秒間触り続けます。</p>	<p>1. 犬の姿勢は問いません（立ったまま、抱っこ、横に寝かせるなど）。</p> <p>2. 姿勢を維持させるなど指示の回数制限はありません。</p> <p>3. リードを踏むなどリードによる行動制限は不可とします。</p>	体のどこを触られても平気なように慣らす練習をします。	<p>体を触る際、逃げ出す（リードが張る）、暴れる、威嚇、攻撃など見られなければ合格。</p> <p>1分以内に体の各部位を全て触ることができれば合格。</p>
Ba II	飼い主が、実際に健康管理、保定などができるか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（A地点）で飼い主は犬と待機します。</p> <p>2. 飼い主はリードの持ち手の輪をどちらかの手首に通し、両手を自由な状態にします。</p> <p>3. ジャッジの指示に従い、飼い主が ①耳 ②マズル（口腔内） ③目 ④足裏（四肢） ⑤肛門周囲 ⑥お腹 をそれぞれ視診します。</p> <p>※各部位の視診の方法は、補足資料を参照。</p>	<p>1. 犬の姿勢は問いません（立ったまま、抱っこ、横に寝かせるなど）。</p> <p>2. 姿勢を維持させるなど指示の回数制限はありません。</p> <p>3. リードを踏むなどリードによる行動制限は不可とします。</p>	健康管理が平気なように慣らす練習をします。	<p>視診をする際、逃げ出す（リードが張る）、暴れる、威嚇、攻撃など見られなければ合格。</p> <p>5分以内に体の各部位を全て視診することができれば合格。</p>

③呼び戻す

飼い主に呼ばれたら、首輪がつかめる位置まですぐに戻ってくるようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	飼い主の呼びかけに応じて正面についてくることができるか？	<p>1. ジャッジが指定した場所（A地点）で飼い主は犬と待機します。</p> <p>2. ジャッジの合図で、飼い主はリードを持ったまま、犬の意識を自分に向けさせその場から後ろに下がります。</p> <p>3. 後ろ向きに5m下がった地点で、犬の首輪をつかみます。</p>	<p>1. リードを引っ張るなどのリードコントロールは不可とします。</p> <p>2. 声かけ、指示の回数制限はありません。</p>	呼ばれたら首輪がつかめる位置にまで戻ってこられるように練習します。	呼ばれたら、1分以内に飼い主についていき、5m地点で首輪を持つことが出来れば合格。
Ba II	犬が飼い主から離れていても、呼ばれたら飼い主の元に近づき、首輪をつかめる位置まで戻ることができるか？	<p>1. ジャッジが指定した場所（A地点）に、飼い主以外の方がリードまたは首輪を持って犬を待機させます。この時犬にはジャッジが準備したロングリードを装着します。</p> <p>2. 飼い主は「呼び戻しの指示」と「座る指示」をジャッジに申告します。</p> <p>3. ジャッジの合図で、飼い主は犬から5m離れ、ジャッジの合図で呼び戻しの指示を犬に出します。</p> <p>4. 犬が飼い主の元に戻ったら正面もしくは横で首輪に手が届く範囲に座らせ首輪をつかみます。</p>	<p>1. リードを引っ張るなどのリードコントロールは不可とします。</p> <p>2. 呼び戻しの指示回数制限は3回まで、座らせる指示制限は3回までとし、申請した以外の指示は不可とします。</p> <p>3. ロングリードは試験会場が室内外を問わず使用します。</p>	呼ばれたら飼い主の元まで戻り、座れの指示で動きを止めて首輪を持つことができるように練習します。	呼び戻しの指示（3回まで）で飼い主の元に30秒以内に帰り、座る指示（3回まで）で座り首輪を持てたら合格。

④姿勢を変える（座る、伏せる、立つ）

3つの姿勢を指示でできるようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	特定の指示と、「座る」、「伏せる」、「立つ」の行動が結びついているか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（A地点）で、飼い主は犬を正面向かい合わせで座らせて待機します。</p> <p>2. 飼い主はジャッジに、座る、伏せる、立つ それぞれの指示を申告します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の指示だけ</li> <li>・手の指示だけ</li> <li>・言葉の指示+手の指示</li> </ul> <p>3. ジャッジの合図で、 伏せる ⇒ 座る ⇒ 立つ ⇒ 伏せる ⇒ 立つ ⇒ 座る 一連の流れ通りに指示を犬に出します。</p>	<p>1. 途中で指示通りにできない時は、最初からやり直します。</p> <p>2. 申請した以外の指示は不可とします。</p> <p>3. 各指示は1度だけ提示し、2度繰り返し提示したりすることは不可とします。</p> <p>4. 名前を呼ぶことは指示カウントに含めないが、褒め言葉などの声かけは不可とします。</p> <p>5. 指示を出す際の飼い主の姿勢は問いません（立っていても座っていても可）。</p>	<p>「言葉の指示だけ」 「手の指示だけ」 「言葉の指示+手の指示」 いずれかどれでも良いので、特定の指示で、「座る」、「伏せる」、「立つ」ように練習します。</p>	5回中に1回、一連の流れが最後まで成功したら合格。
Ba II	言葉の指示と、「座る」、「伏せる」、「立つ」の行動が結びついているか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（A地点）で、飼い主は犬を正面向かい合わせの状態待機します。</p> <p>2. 飼い主はジャッジに、座る、伏せる、立つ それぞれの声の指示を申告します。</p> <p>3. 姿勢の種類はジャッジがその都度指定するので、飼い主はジャッジの指定する姿勢を犬に指示します。</p> <p>座る ⇒ 伏せる ⇒ 座る ⇒ 立つ ⇒ 伏せる ⇒ 立つ ⇒ 座る</p>	<p>1. 途中で指示通りにできない時は、最初からやり直します。</p> <p>2. 申請した以外の指示は不可とします。</p> <p>3. 各指示は1度だけ提示し、2度繰り返し提示したりすることは不可とします。</p> <p>4. 名前を呼ぶことは指示カウントに含めないが、褒め言葉などの声かけは不可とします。</p> <p>5. 指示を出す際の飼い主の姿勢は直立不動とします。</p>	<p>言葉の指示で、「座る」、「伏せる」、「立つ」ように練習します。</p>	3回中に1回、一連の流れが最後まで成功したら合格

⑤姿勢を維持させる（待て）

姿勢の指示を解除があるまで維持することができるようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	飼い主の指示で「座る」、「伏せる」、「立つ」それぞれの姿勢を維持させることができるか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（A地点）で、飼い主は犬と向かい合わせになり待機します。</p> <p>2. 飼い主はジャッジに、姿勢の維持をさせる指示を申告します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の指示だけ</li> <li>・手の指示だけ</li> <li>・言葉の指示+手の指示</li> </ul> <p>3. ジャッジの合図で、「座れ」「伏せ」「立て」各姿勢を10秒維持させ、ジャッジの合図で解除します。</p>	<p>1. 10秒経過する前に動いてしまったら、失敗した姿勢の維持をやり直します。</p> <p>2. 申請した以外の指示は不可とします。</p> <p>3. 指示を出す際は最初の1回だけで、指示を繰り返し与えたり出し続けることは不可とします。</p>	<p>「言葉の指示だけ」 「手の指示だけ」 「言葉の指示+手の指示」 どれでも良いので、飼い主から指示が出されたときには、「座る」、「伏せる」、「立つ」それぞれの姿勢を維持することを理解させる練習をします。</p>	各姿勢の維持は、3回ずつ行い、3回中1回成功したら合格。
Ba II	飼い主の言葉の指示で「座る」、「伏せる」、「立つ」それぞれの姿勢を維持させることができるか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（A地点）で、飼い主は犬と向かい合わせになり待機します。</p> <p>2. 飼い主はジャッジに、姿勢の維持をさせる言葉の指示を申告します。</p> <p>3. ジャッジの合図で、「座れ」「伏せ」「立て」各姿勢を30秒維持させ、ジャッジの合図で解除します。</p>	<p>1. 30秒経過する前に動いてしまったら、失敗した姿勢の維持をやり直します。</p> <p>2. 申請した以外の指示は不可とします。</p> <p>3. 指示を出す際は最初の1回だけで、指示を繰り返し与えたり出し続けることは不可とします。</p>	<p>飼い主から言葉の指示が出されたときには、「座る」、「伏せる」、「立つ」それぞれの姿勢を維持することを理解させる練習をします。</p>	各姿勢の維持は、2回ずつ行い、2回中1回成功したら合格

⑥待機させる

クレート内で、静かに待機することが出来るようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	飼い主の指示でクレートの中へはいることが出来るかどうか。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジャッジの指定した場所で、飼い主はクレートの扉を開けて犬と待機します。</li> <li>2. 飼い主はジャッジに、クレートに入る指示を申告します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の指示だけ</li> <li>・手の指示だけ</li> <li>・言葉の指示+手の指示</li> </ul> </li> <li>3. ジャッジの合図で、リードは持ったままクレートに入る指示を出します。</li> <li>4. クレートに犬が入ったら勝手に外へ出ないようにします。</li> <li>5. 3秒経過したらジャッジの合図で犬をクレートから出します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クレートに犬が入った際に、待機させる指示を出しても可とします。</li> <li>2. クレートに入れる指示を出す際は最初の1回だけで、指示を繰り返し与えたり出し続けることは不可とします。</li> <li>3. クレート内には敷物以外入れてはいけません。</li> <li>4. 申請した以外の指示は不可とします。</li> </ol>	クレートに対して、安心して入ることが出来る。安心できるスペースとして認識させる練習をします。	飼い主の指示で、3回中1回クレートの出入りが指示で出来れば合格。

⑥待機させる

クレート内で、静かに待機することが出来るようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba II	飼い主の指示でクレートの中へ入って、扉を閉めても落ち着いて居られるかどうか。	<p>1. ジャッジの指定した場所で、飼い主はクレートの扉を開けて犬と待機します。</p> <p>2. 飼い主はジャッジに、クレートに入る指示を申告します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の指示だけ</li> <li>・手の指示だけ</li> <li>・言葉の指示+手の指示</li> </ul> </p> <p>3. ジャッジの合図で、リードはつけたままクレートに入る指示を出します。</p> <p>4. クレートに入ったらリードも一緒にクレート内にいれ、扉をしめ、飼い主はクレートの横に立ち 30秒待機します。</p> <p>5. ジャッジの合図で扉を開けて、ジャッジの合図で犬を外に出します。</p>	<p>1. クレートに入れる指示を出す際は最初の1回だけで、指示を繰り返し与えたり出し続けることは不可とします。</p> <p>2. クレートに犬が入った際に、待機させる指示を出しても可とします。</p> <p>3. 扉を開ける時に、待機させる指示を出しても可とします。</p> <p>4. クレート内には敷物以外入れてはいけません。</p> <p>5. 申請した以外の指示は不可とします。</p>	<p>クレートに対して、安心して入ることが出来る。閉じ込められるイメージを定着させないように、クレートの中で休息行動が見られるように練習する。</p>	<p>①指示でクレートの出入り                  ②クレートから勝手に出ない                  ③30秒扉を閉める                  上記内容を1回のトライアルで、ハウスを引っかいたり、暴れたり、吠えたり、鼻を鳴らさないで静かに落ち着いていることができれば合格。</p>

⑦迷惑をかけずに歩かせる

引っ張ったり、誘惑物につられたりせず、飼い主と一緒に歩けるようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	1 分間犬の意識を自分に向けながらリードを引っ張らないで歩行することができるか？	<p>1. ジャッジが指定した場所（B地点）で、飼い主は犬を左右どちらのポジションでも良いので横につかせて待機します。</p> <p>2. ジャッジの合図で、ジャッジが指定した会場の範囲内を、犬の意識を自分に向けながら1分間歩き回り、ジャッジの合図で歩行をやめます。</p> <p>※ジャッジは60秒計測するストップウォッチ①とリードが張っている秒数を計測するストップウォッチ②を準備し、リードが張っているときの秒数を計測します。</p>	<p>1. 歩行中の犬のポジションは左右どちらでも可とします。</p> <p>2. 歩行中の声かけ、誘惑された時のリカバリーコマンドの回数制限はありません。</p> <p>3. リードは首輪のナスカンから緩めのJの字を保つ長さで持ちます。</p>	<p>声かけ、コマンドなど使用すれば、地面の臭いや他の犬などの誘惑から意識を逸らすことが出来き、自分に意識を向け続けさせるように練習する。</p>	<p>48秒以上（8割以上）飼い主に意識を向けながら引っ張らないで歩けたら合格。</p>
Ba II	決められたコースをリードを弛ませたまま、飼い主に意識を向けて歩くことができるか？	<p>1. ジャッジが指定した場所（B地点）で、飼い主は犬を左右どちらのポジションでも良いので横につかせて待機します。</p> <p>2. ジャッジに歩行中の声かけ、リカバリーコマンドの申告をします。</p> <p>3. ジャッジの合図で、指示された会場のコースを左回りに2周歩きます。</p> <p>4. ジャッジの合図で歩行を止めて、犬に座る指示を提示し座らせます。</p>	<p>1. 歩行中の犬のポジションは左右どちらでも可とします。</p> <p>2. 歩行中の声かけ、誘惑された時のリカバリーコマンドは併せて6回まで可とします。</p> <p>3. 歩き出しの指示、止まるときの指示、座らせる指示は回数に含まれません。</p> <p>4. リードは首輪のナスカンから緩めのJの字を保つ長さで持ちます。</p>	<p>歩行のコマンドなどで、一定時間飼い主に意識を向けて歩行が出来るように練習し、歩行途中に座れなどのコマンドにも反応できるように練習します。</p>	<p>飼い主から意識が逸れても、声かけやリカバリーコマンドの指示を出すと10秒以内に注目し、全体がスムーズでリードがJの字を保ちながら2周歩行できれば合格。</p>

⑧排泄のコントロール

排泄物で公共の場所を汚さないようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	犬の排泄のコントロールを日常的に意識できているか？	<p>1. ジャッジは試験会場に排泄場所を確保します。</p> <p>2. 排泄の処理道具を持っているか、トイレ以外の場所でさせていないか確認します。</p> <p>3. ジャッジは試験中のみならず、飼い主が試験会場に来場した段階から、会場を出るまで排泄のチェックを行います。</p>	<p>1. 排泄物処理道具（ウンチ袋、水、トイレシート、消臭剤）を所持します。</p>	<p>他の人に迷惑をかけない排泄が出来るように、日頃から犬の様子を観察し、公共の場所を汚さずに排泄を管理する習慣をつけます。</p>	<p>持ち物検査をして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウンチ袋</li> <li>・水</li> <li>・トイレシート</li> <li>・消臭剤</li> </ul> <p>を持っている。 トイレ以外の場所で排泄をさせなければ合格。</p>
Ba II			上記内容と同様		

⑨注目させる

誘惑物や刺激から目を放すことが出来るようにし、過剰な反応をさせないようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I	誘惑される刺激に反応しても、飼い主の声かけなどで自分に意識を向けさせることが出来るかどうか。	1. ジャッジが指定する場所（A地点）で、飼い主は犬と待機します。 2. 飼い主はジャッジに注目させる指示を申告します。 3. 飼い主と犬から Basic I では、4 m離れた場所 Basic II では、2 m離れた場所から下記5種類の刺激を提示します。	1. 刺激提示しても意識を逸らさない場合、成功としてカウントする。 2. 申請した以外の指示は不可とします。	色々な誘惑刺激があるが、最終的に飼い主の声に反応する方が一番メリットがあると犬が意識できるようにトレーニングする。	5回意識を逸らす刺激を提示して、その内4回以上意識を向けさせることが出来れば合格。
Ba II		①スーパーの袋に手を入れてガサガサ音を立てる ②トリーツの入った袋を握って音を立てる ③オモチャを鳴らす ④テニスボール程度の大きさのボールを数回床につく ⑤食器にフードとトリーを入れて見せる 4. 飼い主は刺激が提示されたら、犬に注目する指示を出します。			

⑩人への「社会性」と「適切な振る舞い方」を身に付けさせる

いろいろな状況で出会った人に対して、過剰な反応をさせないようにするため。

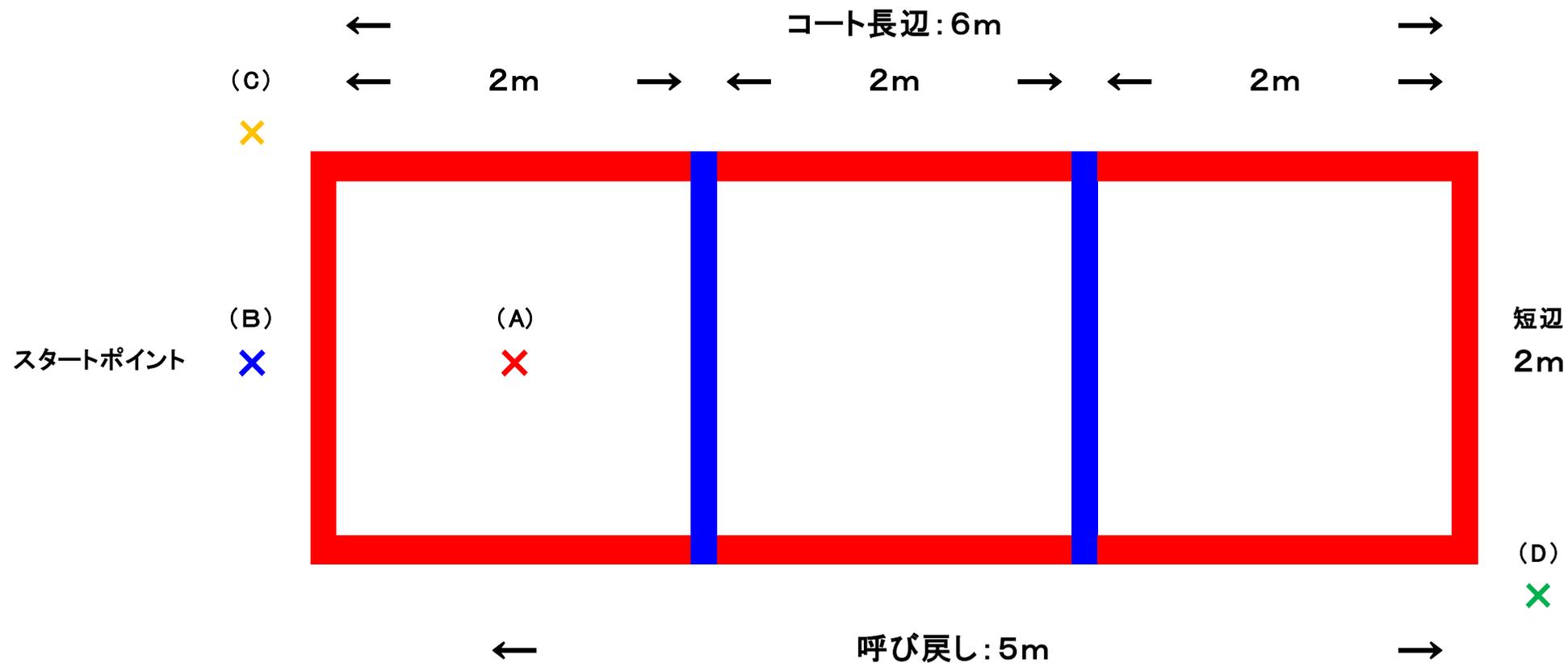
	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I (人)	知らない人に対して過剰に反応せず、通常通りの落ち着いた状態を維持出来るかどうか？ 飼い主は自分の犬の対応方法を知っているかどうか？	1. ジャッジの指定した場所（C地点）に、飼い主は犬と待機します。  2. 飼い主と犬から2m離れた場所を、向かい側（D地点）から人が走って通り過ぎます。	1. 犬はどのような姿勢でも可とします。  2. 声かけ、回避コマンドを提示することは不可とします。  3. 犬の体を触れる、リードでコントロールする、手で隠すなど物理的に刺激から遠ざける行為は不可とします。	知らない人を見ても過剰に興奮させないように、古典的条件付けや拮抗条件付けを用いて慣れさせる練習をする。	吠える、唸る、鼻にしわを寄せる、襲い掛かる、飛びつこうとする、 2本足で立ち上がる、跳ねる、遊びを仕掛ける、逃げる行動が見られなければ合格。
Ba II (人)		1. ジャッジの指定した場所（A地点）に、飼い主は犬と待機します。  2. 飼い主と犬の正面1m手前まで、知らない人が犬の目を見ながら無言で近づき、立ち止まり、Uターンして立ち去ります。	1. 犬はどのような姿勢でも可とします。  2. 声かけ、回避コマンドを提示することは不可とします。  3. 犬の体を触れる、リードでコントロールする、手で隠すなど物理的に刺激から遠ざける行為は不可とします。		

①他の犬への「社会性」と「適切な振る舞い方」を身に付けさせる

いろいろな状況で出会った他の犬に対して、過剰な反応をさせないようにするため。

	何を審査したいのか？	試験方法	試験方法の補足	トレーニングについて	合格基準
Ba I (犬)	知らない犬人に対して過剰に反応せずに、通常通りの落ち着いた状態を維持出来るかどうか？ 飼い主は自分の犬の対応方法を知っているかどうか？	<p>1. ジャッジの指定した場所（C地点）に、飼い主は犬と待機します。</p> <p>2. ジャッジはすれ違い役の犬と人を指定した場所（D地点）に待機させます。</p> <p>3. ジャッジの合図で同時に歩き出し、飼い主は線上を直線に進みすれ違います。（コースレイアウト参照）</p>	<p>1. 声かけ、回避コマンドを提示することは可とします。</p> <p>2. 犬の体を触れる、リードでコントロールする、手で隠す等物理的に刺激から遠ざける行為は不可とします。</p> <p>3. すれ違いの歩行時の犬のポジションは左右どちらでも可とします。</p> <p>4. 犬同士の挨拶はしません。</p>	知らない人を見ても過剰に興奮させないように、古典的条件付けや拮抗条件付けを用いて慣れさせる練習をする。	吠える、唸る、鼻にしわを寄せる、襲い掛かる、飛びつこうとする、 2本足で立ち上がる、跳ねる、遊びを仕掛ける、逃げる行動が見られなければ合格。
Ba II (犬)		<p>1. ジャッジの指定した場所（C地点）に、飼い主は犬と待機します。</p> <p>2. ジャッジの合図で、飼い主と犬から2m離れた場所を、向かい側（D地点）から犬と人が通り過ぎます。</p>	<p>1. 犬の姿勢は問いません。</p> <p>2. 声かけ、回避コマンドを提示することは不可とします。</p> <p>3. 犬の体を触れる、リードでコントロールする、手で隠すなど物理的に刺激から遠ざける行為は不可とします。</p> <p>4. 犬同士の挨拶はしません。</p>		

5) コースレイアウト

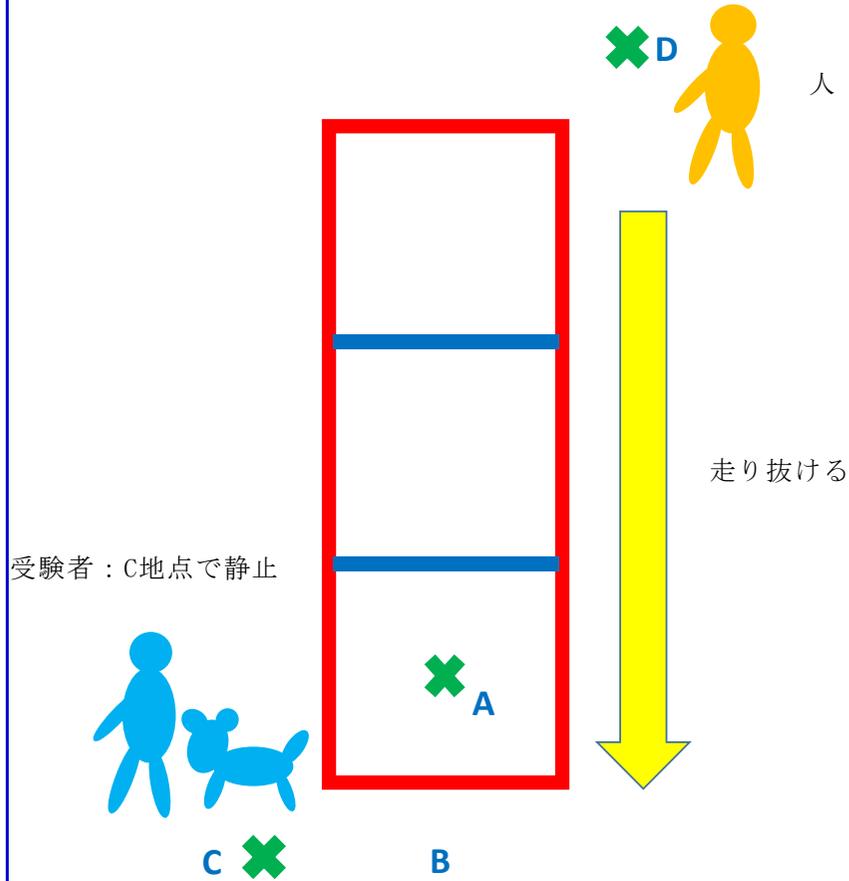


- (1) コートは、6m×2mの大きさとする。テープやコーンで印をつける。
- (2) 長辺を2mずつ、3つに分ける。3つに分けた端のエリア中央部に呼び戻しの5mポイント(A)をつける。
- (3) 短辺の中央、やや外側にスタートポイント(B)をつける。

# ペットドッグパートナーズ試験実技解説資料 Basic I

## ⑩人への「社会性」と「適切な振る舞い方」を身に付けさせる

刺激：人が走り抜ける

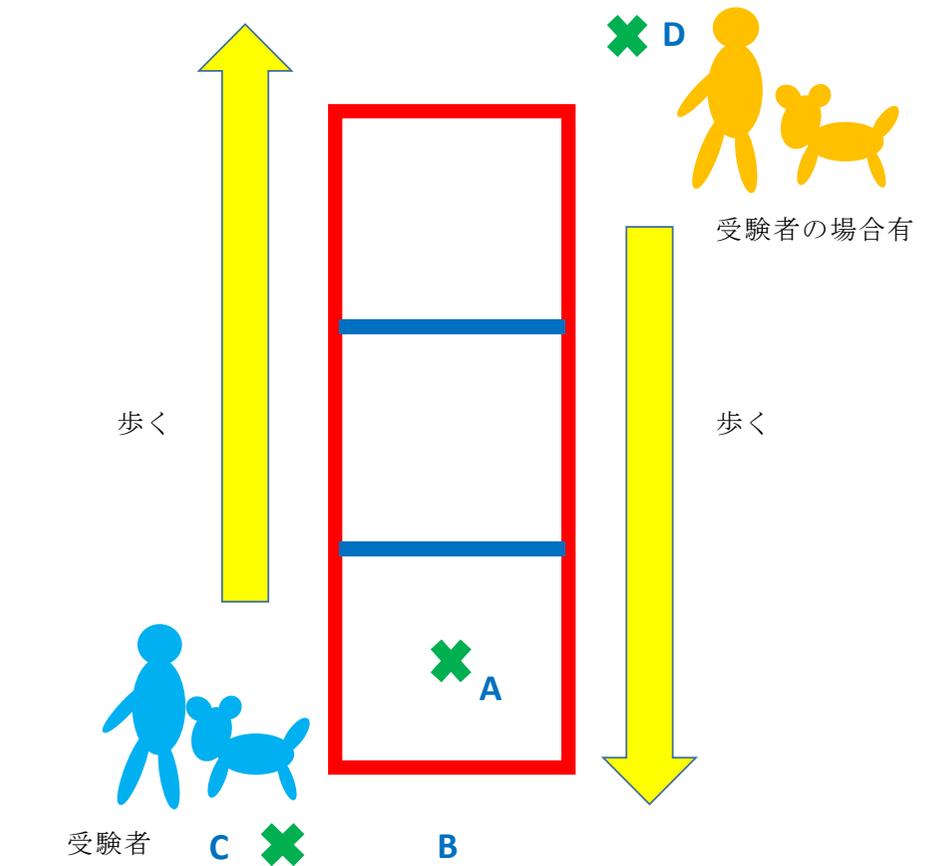


〈試験方法〉

犬から2m離れた場所を、向かい側D地点から飼い主以外の人が走って通り過ぎる。

## ⑪犬への「社会性」と「適切な振る舞い方」を身に付けさせる

刺激：犬とすれ違う



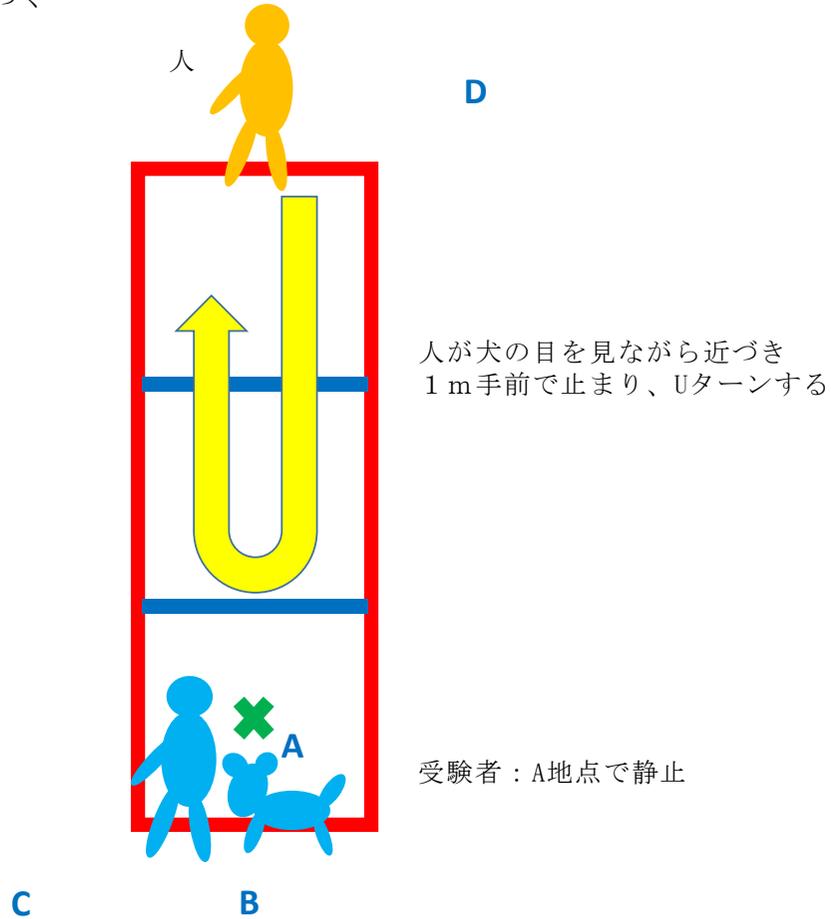
〈試験方法〉

犬同士2mの間隔をあけてすれ違う。C地点・D地点からスタート。犬はお互いどちらのポジションにつけてすれ違っても良い。

## ペットドッグパートナーズ試験実技解説資料 Basic II

### ⑩人への「社会性」と「適切な振る舞い方」を身に付けさせる

刺激：人が近づく

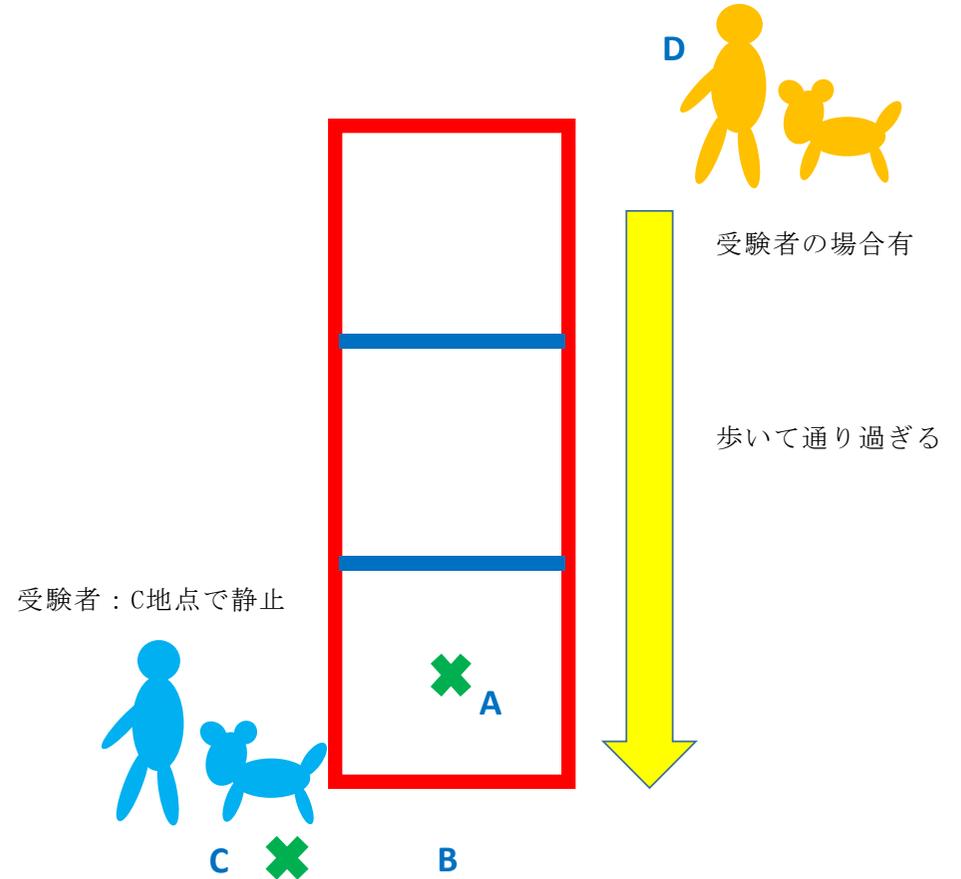


#### 〈試験方法〉

飼い主以外の方が犬の目を見ながら、無言で犬の正面1m手前まで近づいて、立ち止まり、すぐにUターンして立ち去る。

### ⑪犬への「社会性」と「適切な振る舞い方」を身に付けさせる

刺激：犬が通りすぎる



#### 〈試験方法〉

ジャッジが指定した場所に飼い主と犬が待機する。その後、飼い主と犬から2m離れた場所を、向かい側D地点から他の犬とその飼い主が歩いて通り過ぎる。

(項目2) 体を触わる	『診察時を想定し各部位を確認する。 ①目、②マズル、③耳、④足裏(四肢)、⑤肛門周囲、⑥お腹』 『確認』とは、視診＝目で見て異常がないかを確認することとする。
1. 目	片方ずつ検査する。下まぶたを下げて、結膜の色を確認する。
2. マズル (歯および口腔内)	両側の唇を上げて、犬歯を確認する。さらに、口をあけて舌を確認する。
3. 耳 (*)	耳の穴を確認し、匂いを嗅ぐ。垂れ耳の犬は耳たぶを持ちあげて確認する。
4. 足裏(四脚)	各足を持ち上げて、足の裏のパッドを確認する。
5. 肛門周囲	尻尾を持ち上げ、おしり周りを確認する。
6. お腹 (**)	ハンドラーは犬を横向きに寝かせ、お腹と内股の皮膚を確認。お腹を毛並みに沿って3回ゆっくりなでて、触診するように軽く5秒間押す。
(*) 耳は匂いも確認する。	
(**) お腹はしこりがないかを確認するため、少しなでるように触る。	

準備物

1) 飼い主が準備するもの

・排泄物処理道具(ウンチ袋、水、ペットシート、消臭剤)
・トリーツ(トリーツバッグは使用可)
・プレーンな首輪とリード(フレシキリードは禁止)
・ハウス
・ハウスカバー、マット(必要であれば)
・エリザベスカラー(種類は問わない)
・プレーンな首輪とリード(フレシキリードは禁止)
・エリザベスカラー(種類は問わない)

# ペットドッグパートナーズ試験 Basic I・II 申込用紙

(↑ 受験希望クラスに○をつける)



## 飼い主様情報

希望会場名			
試験選択 (希望試験に○)	JAPDT認定 筆記試験		JAPDT認定 実地試験
フリガナ			
名前		性別	男性・女性
生年月日	西暦	年 月 日生	職業
住所	〒		
電話		携帯電話	
パソコン Eメールアドレス			
携帯電話 Eメールアドレス			

ワンちゃんの名前		犬種	
生年月日	西暦	年 月 日生	年齢
性別	オス・メス		避妊去勢の有無
筆記試験	JAPDT認定筆記試験に合格 未・済 (どちらかに○をつける)		
Basic認定証 発行	<p>Basic I・II 実技試験に合格するとジャッジから、Basic I 合格証、Basic II 合格証が発行されます。</p> <p>Basic II 実技試験 合格者にはJAPDTより認定書が発行されます。</p> <p>※認定料金 ¥3,000(税別)が試験料金とは別途かかります。</p> <p>※Advance実技試験を受験するためには、Basic認定証が必要です。</p> <p>※認定料金は試験担当ジャッジがまとめてJAPDT指定口座へ振込となります。</p>		

※申し込み締切日までに各会場へ郵送、メール、FAXにて提出するようにお願いいたします。  
 試験申し込みに関する詳細(お車でのご来場・試験料金支払い等)は各会場によって異なる場合がございます。  
 詳細に関しては、各会場へ直接お問い合わせいただきますようよろしくお願いいたします。

## ジャッジ記入欄

	名前	所属
メインジャッジ		
サブジャッジ		

## 提出書類確認(提出書類に○をつける)

狂犬病接種済証 ( )  
 犬鑑札 ( )  
 混合ワクチン接種済証 ( )

試験結果	合格	不合格
筆記試験		
実地試験Basic I・II		

## 備考欄:

--